

# 国登録文化財に え づ れ よ う す い き ゅ う ぼ う み ゃ う ち り ょ う ひ レンガ造りの水門「江連用水旧溝宮裏両樋」



「国土の歴史的景観に寄与するもの」として登録

宗任神社(本宗道)の裏手にある「江連用水旧溝宮裏両樋」が11月21日、国の文化審議会から国登録有形文化財(建築物)に登録するよう、文部科学大臣に答申されました。正式には平成27年3月頃に登録される予定で、国の登録有形文化財は下妻市では初めて。文化財登録原簿の登録も同月頃で、県内では254件目となります。

今回は、「国土の歴史的景観に寄与するもの」として下妻市初の国登録文化財となり、観光振興や地域活性化が期待される「江連用水旧溝宮裏両樋」を紹介します。

## 江連用水旧溝宮裏両樋とは

「江連用水旧溝宮裏両樋」は、栃木県真岡市上江連を水源とし、鬼怒川と小貝川に挟まれた地域の灌漑用として明治33(1900)年に設けられた江連用水の旧分水施設です。レンガ造りの東西二つの水門と湾曲する擁壁が一体となっており、水門はそれぞれ幅3.6メートルで、上流からの水を等分して下流に流すことができる構造になっています。水門中央部のせき柱は、上流部は船の先端のような水切りの形状で、下流部は階段状になっています。

かつて江連用水には多数のレンガ水門が存在しましたが、現存するのはこの水門のみとなっています。

昭和50年代に江連用水の流路が変更されたことにより、旧水路は「江連用水旧溝」とし

## 新たな観光振興や地域活性化に期待

「江連用水旧溝宮裏両樋」の周辺には、「鬼怒川筋の三大河岸」の一つで、江戸と常陸・下総を結ぶ高瀬舟の発着所であった宗道河岸や、平安時代に平将門が本拠を置いた「鎌輪の宿」、日本一早い豆まきを行うことで知られる「宗任神社」などの名所・旧跡が多く、魅力ある地域資源がふれています。

今回、「江連用水旧溝宮裏両樋」が国登録文化財に登録されることを機に、「下妻いとこ案内人の会」では新たな歴史探索コースの設定を見込んで会員の勉強会が行われています。今後ますます下妻

## 登録文化財

### 制度とは…

文化財というと堅く聞こえますが、登録文化財制度は緩やかな規制により建築物を活用しながら保存を図る制度で、平成8年度から施行されました。

建築物では、建築後50年を経過したもののうち、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」「造形の規範となっているもの」「再現することが容易でないもの」といった基準を満たすもので、「住宅・工場・公共施設などの建築物」「橋・トンネル・ダムなどの土木構造物」「煙突・塀などの工作物」などが対象となります。

## 新たな登録文化財を見いだすことも

下妻市は、茨城県西地域における政治経済・教育・物流の中心地であったため、近代市の歴史、文化、自然、物産など地域の魅力を市内外にアピールする機会が増え、観光客の誘客などによる観光振興や地域活性化が大いに期待されます。

同会は、下妻市観光協会の呼びかけで平成21年に発足し、市内を訪れた方々を観光地に案内するガイド活動を行っている市民ボランティアグループで、最近では、茨城県建築士会下妻支部と協力しながら「街並みウォーキング」を企画運営するなど活発に活動し、下妻を訪れた方々に好評を得ています。

の歴史的建造物などが多く現存しています。

しかしながら、近代の文化遺産は、生活様式の変化や市民の価値観の多様化など社会的背景の変化に伴い、消失の危機にさらされています。また、いまだ必ずしも文化財としての認識や評価が定着していないために、保護措置が十分には講じられていない状況もあります。文化遺産として価値あるものを見いだし、「国登録有形文化財」に登録していくことで、その保存や活用を図ることができそうです。

登録文化財制度については、下妻市教育委員会が窓口として、「新たに登録になりそうなものがある」という情報提供なども随時受け付けています。

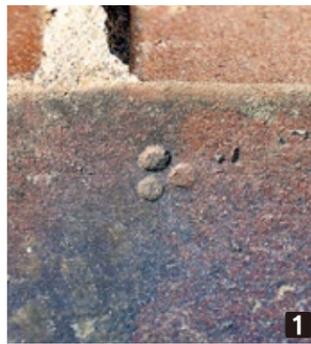
問い合わせ  
生涯学習課 ☎45-89996

1 建築材として使われたレンガには、明治31年3月に開業した市内鯨の國府田煉瓦(こうだれんが)工場で作られたことを示す、「.」の刻印が認められる。

2 現存するレンガ造水門の設計者等は伝えられていないが、レンガの積み方はイギリス式が採用されている。平成13年にわずかに底面が改修された。

3 天仁2(1109)年の創建と伝わる宗任神社。境内の森は「茨城の自然100選」に選ばれ、北側の境内裏に「江連用水旧溝宮裏両樋」が遺されています。

4 「下妻いとこ案内人の会」会員勉強会。「江連用水旧溝」の案内板を見ながら現地を研究し、案内ルートや説明内容を検討。



## Interview



下妻いとこ案内人の会  
会長 粉川 孝さん

## 地元を知り、地元愛を育み、誇れる下妻を伝える

取り壊してコンクリートで再整備の話もあった「宮裏両樋」が、先人の功績により保存され、今回、国の登録文化財に答申されたことを大変うれしく思っています。

全国に数ある登録文化財の中でも、農業施設としての登録はとても珍しいことです。この宮裏両樋を語るうえで、江連用水の整備に至る先人の苦勞話にふれますが、現在市民の憩いの場となっている「砂沼」が江連用水の「ため池」として造られた話にもつながり、下妻市の歴史を知り、地元愛を育むよいきっかけになります。

これから、「下妻いとこ案内人の会」の会員みんなで勉強しながら、宮裏両樋を中心とした魅力ある観光案内ルートづくりを進め、まずは地元の人(下妻市民)に「宮裏両樋」のことを知ってもらえるよう、伝えていきたいと思っています。

そして、下妻を訪れた人に「宮裏両樋はどこですか?」と聞かれたときに、市民の皆さんが誇りをもって応えられるようになれば、下妻の知名度も高まっていくものと考えています。今後も下妻市の観光振興に貢献できるよう、地道ながらもしっかりと活動していきたいと思っています。